

平成31年2月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)



平成30年7月13日

上場会社名 株式会社ブロッコリー
 コード番号 2706 URL <http://www.broccoli.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 高橋 善之
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員管理本部長 (氏名) 渡邊 朋浩
 四半期報告書提出予定日 平成30年7月13日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東

TEL 03-6685-1366

(百万円未満切捨て)

1. 平成31年2月期第1四半期の業績(平成30年3月1日～平成30年5月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年2月期第1四半期	1,235	72.2	118	—	115	—	70	—
30年2月期第1四半期	717	△33.4	△88	—	△83	—	△58	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年2月期第1四半期	1.60	—
30年2月期第1四半期	△1.33	—

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年2月期第1四半期	9,822	—	8,823	—	—	89.8
30年2月期	10,025	—	8,993	—	—	89.7

(参考)自己資本 31年2月期第1四半期 8,823百万円 30年2月期 8,993百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年2月期	—	0.00	—	5.50	5.50
31年2月期	—	—	—	—	—
31年2月期(予想)	—	0.00	—	17.00 ～24.00	17.00 ～24.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

当社は、平成30年9月1日を効力発生日として普通株式5株につき1株の割合をもって株式併合を実施する予定であるため、平成31年2月期(予想)の1株当たり期末配当金につきましては、当該株式併合の影響を考慮した金額を記載しております。詳細は、「業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項」をご覧ください。

また、平成31年2月期(予想)の配当性向は、35.0%～37.2%となります。

3. 平成31年 2月期の業績予想(平成30年 3月 1日～平成31年 2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,400 ～6,000	△0.2 ～10.9	600 ～900	3.3 ～54.9	600 ～900	0.9 ～51.4	400 ～600	△1.2 ～48.1	45.73 ～68.59

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

平成31年2月期の業績予想(通期)の1株当たり当期純利益につきましては、株式併合の影響を考慮した金額を記載しております。詳細は、「業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	31年2月期1Q	43,738,211 株	30年2月期	43,738,211 株
② 期末自己株式数	31年2月期1Q	1,325 株	30年2月期	1,325 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	31年2月期1Q	43,736,886 株	30年2月期1Q	43,736,888 株

平成30年5月25日開催の第24期定時株主総会において、株式併合に関する議案が承認可決されたため、株式併合の効力発生日(平成30年9月1日)をもって、期末発行済株式数(自己株式を含む)は8,747,642株となります。

また、同株主総会において、同年9月1日をもって、単元株式数を1,000株から100株へ変更する旨の定款変更が承認可決されております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が発表日及び現時点で入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づき作成されたものでありますが、業績等につきましては様々な要因により、今後大きく異なる可能性があります。

2. 当社は、「財務諸表等規則」に従い財務諸表を作成しております。

3. 当社は、平成30年5月25日開催の第24期定時株主総会におきまして、単元株式数の変更、株式併合および定款の一部変更について付議し、各議案が承認可決されたため、平成30年9月1日を効力発生日として、単元株式数を1,000株から100株に変更し、証券取引所が望ましいとしている投資単位の水準(5万円以上50万円未満)を勘案し、普通株式の併合(5株を1株に併合)を行う予定です。なお、株式併合を考慮しない場合の平成31年2月期の配当予定および業績予想は以下のとおりであります。

(1) 平成31年2月期の配当予定 1株当たり配当金(期末) 3円40銭～4円80銭

(2) 平成31年2月期の業績予想 1株当たり当期純利益(通期) 9円15銭～13円72銭

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	5
四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
3. 四半期財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期貸借対照表	6
(2) 四半期損益計算書	8
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社が属するエンターテインメント業界におきましては、スマートフォンゲーム市場の成長に加え、国内家庭用ゲーム市場につきましても、ゲーム機本体・ソフトともに好調に推移しており、国内家庭用ゲーム市場の活性・拡大への期待が高まっております。

当第1四半期累計期間における当社の業績におきましては、まず、女性向け主力コンテンツ『うたの☆プリンスさまっ♪』のイベントグッズの販売が売上高に寄与いたしました。本年2月から4月にかけて『うたの☆プリンスさまっ♪Shining Masterpiece Show 企画展』（主催：株式会社東京ドーム）の開催、4月に舞台『劇団シャイニング』3作目『JOKER TRAP』公演（主催：劇団シャイニング）、5月に『ST☆RISH』初のファンミーティング『Welcome to ST☆RISH world!!』（主催：うた☆プリ劇場版製作委員会）が開催されるなど、これらイベントでのグッズ販売が大変好調となりましたことに加え、ネコのぬいぐるみ『PRINCE CAT』シリーズも大きな好評を得たことなどにより、『うたの☆プリンスさまっ♪』関連グッズは、前年同期の売上高を大幅に超えることができました。

また、『うたの☆プリンスさまっ♪』ゲームアプリ『うたの☆プリンスさまっ♪ Shining Live』のロイヤリティも安定的に推移しております。

次に、他社ライセンスグッズにおきましても、当社発のヒットぬいぐるみシリーズ『ちゅんコレ』が多数の他社タイトルとのライセンス許諾を得られましたことで、ラインナップを大幅に強化することができました結果等により、上述の『うたの☆プリンスさまっ♪』関連グッズと同様に、前年同期の売上高を大幅に超えることができました。

更に、トレーディングカードゲーム『Z/X -Zillions of enemy X- (ゼクス ジリオンズ オブ エネミー エックス)』におきましても、「プレイヤー」と「パートナーゼクス」が合体する新システム「イグニッション・オーバーブースト (IGOB)」が実装されたブースターパック 誓約舞装編 (コード：エンゲージ) 『絆が導く未来 (エヴォリューション・コネクト)』を計画どおり4月に発売し大変好調であり、同月、描き下ろしチアガール姿の新規ゼクスのカードやデッキ構築をサポートする再録カードを揃えた初心者応援パック『ビギナーズパック』も発売しており、同じく好調な売上高となりました。進行中の第2四半期におきましても6月に発売したEXパック第11弾『よめ♥ドラ』が、ジュンブライドに合わせて人気ゼクスがウェディング衣装姿で登場するなど、ビジュアルとカード能力の両面で魅力を押し出した内容により、好調な販売が継続しております。併せてコスト改善も図り、通期の売上高・利益の大幅改善に向け進捗しております。

この結果、当第1四半期累計期間における売上高は1,235百万円（前年同期比172.2%）、営業利益118百万円（前年同期は営業損失88百万円）、経常利益115百万円（前年同期は経常損失83百万円）、四半期純利益70百万円（前年同期は四半期純損失58百万円）であり、前年同期実績から大幅な黒字回復を達成することができました。

第2四半期におきましても、夏季限定の『うたの☆プリンスさまっ♪』コンセプトショップ『SHINING STORE』の開催や、コミックマーケット94出展も控えており、第3四半期では、デザイナー 丸山敬太氏を迎えての『うたの☆プリンスさまっ♪』コラボレーション企画第2弾9月イベント『うたの☆プリンスさまっ♪ 雪月花 Eternal Moment』や、『うたの☆プリンスさまっ♪ 劇団シャイニング』の新シリーズ舞台化第1弾『ポラリス』公演を計画しております。5月に概要の発表をいたしました新作コンテンツ開発状況も順調に進行しており、引き続き業績向上に向けて邁進してまいります。

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

(流動資産)

当第1四半期会計期間末における流動資産の残高は7,649百万円で、前事業年度末に比べ285百万円減少しております。主な内容は、現金及び預金の増加83百万円、仕掛品の増加35百万円などの増加要因に対し、売掛金の減少340百万円、商品及び製品の減少18百万円などの減少要因であります。

(固定資産)

当第1四半期会計期間末における固定資産の残高は2,172百万円で、前事業年度末に比べ82百万円増加しております。主な内容は、有形固定資産の増加55百万円、無形固定資産の増加27百万円などの増加要因であります。

(流動負債)

当第1四半期会計期間末における流動負債の残高は885百万円で、前事業年度末に比べ32百万円減少しております。主な内容は、その他流動負債の増加252百万円などの増加要因と、買掛金の減少124百万円、賞与引当金の減少13百万円、役員賞与引当金の減少21百万円などの減少要因であります。

(固定負債)

当第1四半期会計期間末における固定負債の残高は113百万円で、前事業年度末と同水準で推移しております。

(純資産)

当第1四半期会計期間末における純資産の残高は8,823百万円で、前事業年度末に比べ170百万円減少しております。これは、四半期純利益70百万円が計上された一方で、剰余金の配当240百万円が行われたことが主な要因であります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年4月13日の「平成30年2月期 決算短信〔日本基準〕(非連結)」で公表いたしました平成31年2月期の通期業績予想及び配当予定に変更はありません。

なお、前述の通期業績予想及び配当予定の表示方法につきましては、後述の「※レンジ形式の業績予想及び配当予定について」に記載しております内容に基づき、サマリー情報記載のとおりレンジ形式での表示といたします。

※レンジ形式の業績予想及び配当予定について

「ツインエンジン」(「自社内にて開発するコンテンツのヒット創出及びハイリターンの追求」、「リアルグッズ製作での確実な収益確保」)の2つを両立する事業戦略を推進しております当社の売上構成は、

A. ユーザー評価は、その感性に委ねられ、まさに発売してみないと市場の反応が判別できないコンテンツ部門

B. マーチャンダイジング、マーケティングの手法が比較的通用し、努力度やPDCA等の成果が売上と利益に反映され易い、グッズ部門

に大別されます。

更に、A. コンテンツ部門におきましては、売上の振れ幅に加えて、その販売数量により利益率が大きく上下します。よって当社は、期初から第2四半期終了時までには売上・利益・配当ともにレンジ形式での予想数字として、期末に近づく数字の確実性の増す第3四半期終了時に、単独数字での発表を予定しております。ただし業績の進捗を踏まえ、前述の期日以前に合理的な算定が可能になった場合には、その時点で速やかに開示いたします。

なお、業績見通し等の将来に関する記述は、当社が発表日及び現時点で入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づき作成しておりますが、業績等につきましては経営環境の変化やその他様々な要因により大きく異なる可能性がありますので、その場合には開示が可能となった時点で速やかに業績予想の修正を公表いたします。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

3. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成30年2月28日)	当第1四半期会計期間 (平成30年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,824,299	6,907,760
売掛金	765,848	425,422
商品及び製品	61,545	43,016
仕掛品	108,795	144,506
原材料及び貯蔵品	777	717
その他	183,235	135,552
貸倒引当金	△9,034	△7,312
流動資産合計	7,935,467	7,649,661
固定資産		
有形固定資産		
建物	1,135,238	1,215,618
減価償却累計額	△203,376	△178,028
建物(純額)	931,861	1,037,589
土地	907,414	907,414
その他	174,049	126,271
減価償却累計額	△88,258	△90,744
その他(純額)	85,791	35,527
有形固定資産合計	1,925,067	1,980,531
無形固定資産	36,339	63,557
投資その他の資産		
その他	130,897	130,353
貸倒引当金	△2,000	△2,000
投資その他の資産合計	128,897	128,353
固定資産合計	2,090,304	2,172,442
資産合計	10,025,771	9,822,104
負債の部		
流動負債		
買掛金	448,158	324,146
未払法人税等	167,249	39,809
返品調整引当金	63,826	64,115
賞与引当金	36,330	23,061
役員賞与引当金	29,000	8,000
その他	174,193	426,693
流動負債合計	918,758	885,826
固定負債		
退職給付引当金	10,334	10,459
役員退職慰労引当金	39,516	40,841
その他	63,310	61,854
固定負債合計	113,161	113,155
負債合計	1,031,919	998,981

(単位：千円)

	前事業年度 (平成30年2月28日)	当第1四半期会計期間 (平成30年5月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,361,275	2,361,275
資本剰余金	2,066,627	2,066,627
利益剰余金	4,564,025	4,393,596
自己株式	△478	△478
株主資本合計	8,991,448	8,821,019
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	2,403	2,103
評価・換算差額等合計	2,403	2,103
純資産合計	8,993,852	8,823,123
負債純資産合計	10,025,771	9,822,104

(2) 四半期損益計算書

第1四半期累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年5月31日)	当第1四半期累計期間 (自平成30年3月1日 至平成30年5月31日)
売上高	717,371	1,235,038
売上原価	529,550	821,576
売上総利益	187,821	413,462
販売費及び一般管理費	276,413	295,435
営業利益又は営業損失(△)	△88,592	118,026
営業外収益		
受取利息及び配当金	—	0
不動産賃貸料	18,083	18,899
その他	49	32
営業外収益合計	18,133	18,931
営業外費用		
支払利息	178	137
不動産賃貸費用	12,688	21,768
その他	—	27
営業外費用合計	12,866	21,932
経常利益又は経常損失(△)	△83,325	115,025
特別損失		
固定資産処分損	—	12,273
特別損失合計	—	12,273
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	△83,325	102,751
法人税等	△25,242	32,627
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△58,082	70,124

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

当社はエンターテインメント事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。